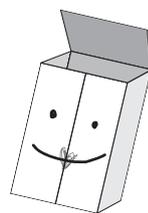


# の 宝箱

# 私



## 「私の部屋の小さなギャラリー」

田力 寿子

いつからだったか、お祝いに『絵』を贈るようになった。

初めて訪れたのは十五年前だったかな？そのアート専門店は走り慣れた道沿いにあり、さりげないけれど異空間漂う存在感があり、店の前を通るたびに気になっていた。友人へのプレゼントを探していた時、引き寄せられるようにドアを開けたのを覚えている。

何気なく足を踏み入れた場所はとても心地よく、壁いっぱい飾られた絵をわくわくしながら眺めていた。それからというもの、何かの折には絵をプレゼントするようになり、自分へのご褒美としても絵を買おうようになった。プレゼントは私の好みで選んだり、贈る人をイメージしながら選ぶこともある。好きな作家さんは何人かいるが、惹かれる絵はその時々で少しずつ違って来た。

アート専門店のだが、近所の美術館へ行くかのようにふらっと立ち寄っては、好きな作家さんの絵を眺め、買うことなく帰ることもしばしば。いろいろなデザインの額を見るのも楽しい。ポストカードの品揃えも豊富で、

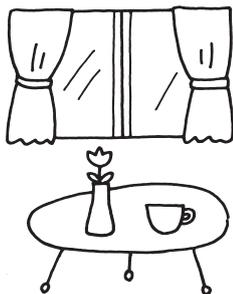
新しいカードが並んでいると、ついつい手に取ってしまう。おかげでポストカードが山のように集まってしまった。

「絵」には不思議な力がある。絵と向き合っている時は頭の中がリセットされていくように、どんどん絵の世界に引き込まれ、リラックサしていく自分がある。絵の世界を想像するのも楽しい。私にとって、絵は「癒し」なのだ。

最近のマイ・ギャラリーは、ある作家さんのメルヘンタッチな「絵」と、数年前に登った槍ヶ岳（雲ひとつない青空と残雪の白が映え、素晴らしいと自画自賛している。）の写真。そして黄色のチューリップのポストカードが仲良く並んでいる。統一性はないが、どれもお気に入りなので、眺めていると頬がゆるむし元気が出てくる。どんなに疲れていても、絵を眺めていると心が落ち着く。そこに絵が1枚あるだけで、一瞬にして癒しの空間ができあがる。ちなみに職場の机には奈良の大仏のポストカードがある。（寺や神社・仏像などを見るのも、私にとっての癒しなのだ。）

さて、今度はどの絵を並べようかな。紅茶でも飲みながら…なんて、そんな上品な空間ではないけれどね。

(総務課のおおぞら係)



## 絵本の世界

## 「ポポおばさんとことりたち」

おおしまりえ  
大日本図書

榎 敏子

三人いる子供たちは、読む本の好みがそれぞれ違うので、わが家では図書館を利用することが多いです。

長男は、ドラえもんの本や虫の本、長女は昔話、次男はおさるのジョージが好きです。布団の中で読み聞かせすることもありますが、小学生の長男・長女が次男に本を読んでくれることもあります。

「ポポおばさんとことりたち」は、書店で見つけた時にあまりにも表紙の絵がかわいいので、内容も確認せずに思わず購入してしまいました。本の中を見ると、一ページ一ページがとてもかわいらしく、丁寧な仕上がりの絵でした。内容も鳥のポポおばさん、仲間の鳥



達、巣を作っている木との優しい関係が書かれています。絵のかわいらしさで購入した本ですが、心がポカポカしてくる内容だったので、今では私と長女のお気に入りの一冊になっています。

子供達が数年後社会に出ていった時、いつもポポおばさんのように、優しい気持ちを持ち続けることができる大人に成長してほしいと思わせてくれた本です。



ポポおばさんとことりたちの絵本